

NADPZ

February Newsletter



自然農法を継続することの必要性

なぜ私たちが環境に配慮する必要があるのか、そしてなぜ私たちが農業生態学的な農法に注意を向ける必要があるのかについて、いくつかの記事、スピーチ、研究が発表されています。しかしそれらの「執筆は壁に掛けられたまま！」です。これらの文書によると、一番の理由は需要と供給によるものです。利用できる資源の量は限られており、ますます多くの人々がそれらを使い果たしています。私たちの将来の世代が同じ生活水準を享受したいのであれば、私たちは行動を起こす必要があることを経験しています。

プロジェクトマネージャーのビューティー・チョマが、ムユニクラブの女性たちと一緒に自然農法の豆畑を掃除しながら、彼らが自然農法を信じている理由について話し合ったところ、女性たちから次のような言葉が返ってきました。

「世界は終わりに近づき、どういうわけか私たちは神様を怒らせてしまったと感じています。今季は雨が遅く始まり、一旦雨が降り始めると、まるで神が怒って私たちを溺れさせようとしているかのような勢いでした。多くの圃場が特に今年の洪水で破壊され、洪水がなかった場所でも、水が多すぎるため、作物はあまりうまく育っていません。このような状況の中でも、生き残った小さな畑があります。たとえ小さくても、家族を養うために必要な食糧を与えてくれます。畑が誰に属しているかを尋ねると、通常は自然農法をしている人です。ですから、私たちは自然農法活動を続けます。なぜなら、これは神が私たちが正しいことをしていると感じているということであり、それ故に私たちの畑を守ってくださったのです！」



新たな一步を踏み出す



過去16年間は、ザンビア政府からの認知と積極的な賛同を得るための困難な道のりでした。これは国の不安定な政治事情によるものです。16年間で、2人の大統領が亡くなり、その結果政府に継続性のない複数の選挙が行われてきました。

新たな政府が、農村地域の開発と気候問題、そして環境にやさしい農業を最前線にもたらすことに投資し、注意を向けることを決定したことは、新しい夜明けです。

プロジェクトマネージャーと新旧のプロジェクトリーダーたちは、ムババラ地区から新たに選出された国会議員（MP）ジョセフ・ムンサンジェ氏と会合を持ちました。彼は女性たちの努力、勤勉、献身を高く評価する考えの人でした。ムンサンジェ氏は、現政府が農村地域の女性クラブや協同組合を支援する上でどのように取り組んでいるかに言及し、ザンビア自然農法開発計画（NADPZ）と秀明インターナショナルがムババラ地区の女性たちと協力して行った取り組みは、ザンビアの他の地域でも再現されるべき例であると述べました。ムンサンジェ氏は、女性リーダーたちがプロジェクトを拡大させるための企画や活動を支援することを約束してくれました。彼と一緒に仕事をすることを楽しみにしています！

今月の農家紹介



今月の農家に会いましょうのベリンダ・ムンサンジェさんは農家であるだけでなくカベタ職業訓練センターの縫製の先生でもあります。ベリンダは6人の自身の子供たちと2人親にめぐまれない子供を育て、妻として主婦として頑張っています。彼女はいつも夫の農業を手伝ってきましたが、自分自身がより自立感を持ち子供たちのサポートをすることができるようになるために、自然農法を始めました。彼女はペンガウジャネ組合に8年前から所属し、他の若い女性たちの自立を支援するために縫製を教えています。

「このプロジェクトは私の人生を変えました。妻として母親として家計を管理できるのはいい気分です。自分自身に力を与えてくれ、子供たちを学校に行かせることができるんです。」と真顔で力強く答えました。